



プロうま。

*02 無限のフロンティア
乳牛姫総受け本♥

For Adult Only



アロイオ

無限のアロイオ
乳牛糖給愛4.

☺ まえがき ☺

はみやみゃんみや (あいさつ) !!
みさくらなんこつと申しますぞぞ!
ふだんはアキハバラで
紙風船のシャッターをながめてたり、
丸五のとんかつのおいしさに
涙を流したりしています
よろしくどうぞぞぞぞ~!

*02ぞぞ、*01のつづきぞぞ!あたりまえか…。
むげろ、私はほんとよかったのぞぞおー
ロボ分が抑え気味なのと
お約束な設定がすくなめだったのぞぞ
私でもスムーズに話がわかるー●
ふっふっふ…!! (なんでとくいげなんぞ)
でも一番うれしかったのは
女の子がいっぱいだったこと、ぞおね!!
がんばる女の子はいい…!!生きてる感じ…!!
ぞ、*01よりさらにパワーアップはかるべく
いろいろチャレンジしてみました●
なのでみてやってください♥
ぞはぞは~…!!



私今日はロケット
とれまいたんご
大事な持分は
見えてなかっただん
ごすはらね...

.....ん...?
ムムムム...
ムムムム...ムムムム...

...ムムムムムム
私...
神夜さんの...
笑、走、ま、ま、ま、ま...

神夜さん...
可憐なためら
う...

.....
たか...
直接

女女女女女女
ムムムムムム

ムムムムムム
ムムムムムム



116...



Handwritten annotations in Japanese characters are scattered throughout the image, often written vertically. These include:

- Top left: 手... (Te...)
- Top right: 手... (Te...)
- Center left: 手... (Te...)
- Center right: 手... (Te...)
- Bottom left: 手... (Te...)
- Bottom right: 手... (Te...)



あーあーあー...

あーあーあー...

あーあーあー...

あーあーあー...

あーあーあー...

あーあーあー...

あーあーあー...



...
...
...
...
...



...
...
...

...
...
...
...
...



...
...
...

...
...
...
...
...



...
...

...

...

...
...
...
...
...

...
...
...

...
...
...
...
...

...

のフロンティア
秘受け本

また...私...!!

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...





乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...

乳牛姫受け本...



おはっ!! ココへ

おはっ!! ココへ

おはっ!!

おはっ!!

おはっ!!

おはっ!!

おはっ!!

おはっ...
おはっ...
おはっ...おはっ...
おはっ...おはっ...

to be continued

→ プロウま。

*03 無限のフロンティア
乳牛姫様受け本♥

☺ なかがき ☺

神夜たん漫画でしたー
むむむ、描きたいところばかり描いてたら
話がぐちゃまない…… 〇
でもがんばった！わたしががんばった…
ってうるせー！！がんばりなんかどうでもいい！！
過程を評価してくれるのは学校だけだぜ
(かっこいい) (KOFクラークのバクリ)

前回にもましてかわいいのとエッ千なの
両立を目指してみたんですけどどうですかねえ
ふみゅ？

このあとは
ふたなりKOS-MOSたんマンガ &
はやさが先生との小牟 × 神夜小説です～★

とて二半たんと持た
しまへた後も...



他機能への障害を
防ぐため...
他タスクよりも
自慰...
優先させます...

ちんぽが収ま...
ちんぽが収ま...
ちんぽが収ま...

ちんぽ...
ちんぽ...
ちんぽ...

ちんぽ...
ちんぽ...
ちんぽ...

ちんぽ...
ちんぽ...
ちんぽ...

ちんぽ...
「反持ちんぽ...」
「反持ちんぽ...」

ちんぽ...
「反持ちんぽ...」
「反持ちんぽ...」
「反持ちんぽ...」

反持ちんぽ...
小年...
セックス...
おま...
おま...

11...11のピーピー...
ちゅんぽーの性能...
ちゅんぽー...♡

ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡



ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡



ちゅんぽー♡

セズリ以外のタスクを
実行できません♡

私モロくちゅんぽーの
演算処理ごきな♡

ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡



ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡
ちゅんぽー♡

ちゅんぽー♡

周囲の気温は肌寒さを感じるくらいには冷えているが、温泉から立ち昇る湯気と、地熱によって暖められているおかげで岩場はむしろ暑いくらいだ。

その証拠に神夜の火照った身体はジツトリと汗ばんで、肌の表面を伝う温泉の水滴と混ざり合っている。

「はあっ……はふっ、はああ……ふふう……」
「くっふふふふ。たっつぷりと楽しもうぞ♡」
これでのうう……じゅるっ」

唾液をすすり上げながらシャオムウは神夜の胸に指を這わせる。
力を入れず、表面の肌触りだけを楽しむように優しくゆっくりと指先をずらしていく。

「んくっ……んふううんっ……あ、あああっ……シャオムウさん……はあっ……ふううううっ……」

ただ撫でるようにするだけでも、神夜の敏感な身体は震えて、全身の柔らかな肉を揺らす。

「これこれ♪ そんなに身体を揺らすでない。コーンしてきてくるとはでないか」

「だって、だって、だってっ、だってだっ……シャオムウさんが……あ、あううう……んっ……くっ……はあああ……」
「肌の感触を確かめているだけだというに、大した敏感ボディじゃのう。むふふふうう」

シャオムウは神夜の乳肉の上や下に触るばかりで中心には一切触れていない。
にも関わらず、神夜の息は荒くなる一方だ。

「おやおや、ぶっとく勃起したチンポも、先っ

ぽがトロトロになっていておるのではないか♡ いたいわしに何を期待しておるのかのう？」
「な、なになってっ……そ、そのおっ……あううううううう」

神夜は興奮を隠せない自分を恥じるように、シャオムウから目を逸らす。
だが彼女の肉棒は自身から溢れる淫汁によって亀頭を濡れ光らせるまでになっていた。

「それにしてもデカイ乳じゃのう。片方だけでわしの頭くらいはあるのではないか？ くっふふっ……いたたまあす」

シャオムウは目の前の並外れた大きさを持つ乳肉に顔を近づけたかと思うと、下から上へ、舌で持ち上げるようにその肉の塊を舐め上げはじめた。

「んああっ！ んひっ……ひはああっ……あ、あううううんっ……む、胸がっ……ああっ！

シャオムウ……さああんっ……！」
「れるるるるおくんっ……さすがに舌で持ち上げるのはムリじゃのう。だが……舌がめり込んで左右だけ垂れ下がって……心地よい重みを感じるぞ」

下から上に舐め上げて、乳輪近くまで達したらまた元の位置まで戻って下から上へ。
それを何度も繰り返し返して、舌で神夜の重さと柔らかさを堪能する。

「はぐうううんっ♡ あ、あうううう……！！ シャオムウさんの舌がっ、わ、私のっ、私のお乳をおおっ……持ち上げてますううう……あ、あああ……深くめりこんでっ……んくっ、ふうううんっ♡」

「柔らかいおっぱいのたぽたぽとした感触を樂しむには、これが良いのじゃ。れるっおっ……れっるっ、るるるおっ……んちゅば……♡ んふふ、わしの舌が乳肉にずぶずぶとからめ取られるようじゃ♡」

舌だけでなく、頬を寄せたりして肉布団の感触を樂しむシャオムウ。
彼女のペニスも神夜と同じように亀頭を濡れ光らせて、岩場へと淫液を垂らしていた。
くりゆうんっ！

「んひいひいっ……お、おあああ……あうううんっ……こ、コスれてっ……♡」
「んうっ！ くうっ……少し触れただけでもこれはっ……き、効くううう……♡」

2人とも身体が密着に近い常態にあるため、巨大な2本のペニスは意識せずとも触れ合ってしまう。
特に敏感な身体を持つ神夜のほうは予期しないペニスへの刺激に驚いて、大きな声をあげてしまっていた。

「良いのう、良いのう。その声……いろいろとしたくなってしまうではないか♡ たとえば……こんなことをのうっ♪」

脂肪を持ち上げていた舌が、今度は乳肉の上で山を作っている乳輪へと伸びていく。

「れるるるおくんっ……れるっ、ちゅぶぱっ……れるるるるおおっ♡ ほおくれ。正体を見せい♡ ぬしのエロいおっぱいはこんなものではないよのう？ わしに隠し事はイカンのう♡ れるんっ♡」
「ひいあっ……ひ、ひううう……く、くふっ

……あああああ……あううっ、お乳がっ……
シャオムウさんの舌で、いじめられてるううっ
……♡
「いじめなものか。舌で重い肉を持ち上げたり
っ……ぺちやああ……こうやって、乳輪を撫
で回しているだけではないか……れっ、るれえ
っ……ちゅぶっ」

彼女の舌は、まず表面の汗とお湯を味わうよ
うに舐め取ってから、次に唾液を塗りつける。

「ちゅぶっぱっ、ぺちやちやああ……れるっ、
ちゅぶっぱあ……れるるるおんっ、れるっ、れ
るるるっ……ほうれ、わしの舌と糸を引いてお
る。ちゅるっ……れるるるおおおくんっ……ち
ゅちゅるっ」

唾液をたっぷりと塗りつけて糸を引かせたら、
舌でその唾液の層をそぎ落とすようにして舐め
取り、口内の唾液と混ぜ合わせてから、再び乳
輪へと塗りつける。

「ほあああああ……あ、あおおお……♡
そんな、そんなあ……こ、こんなのっ、こ
んなのおおお……おおお……ほおお
おお……♡んきゅううう♡
「ほおれ……自慢のお乳がわしのヨダレでド
ド口になつておるぞ……じゅぱっ、じゅっぶは
っ……ぺちやああ……汁気たっぷりじゅの
うっ……じゅぺちやっ！」

乳輪に舌先を押し付けながら口を開くと、舌
の上を伝って唾液が一直線に流れる。舌
ぬちやっ……ぐちやあ……ぬちゅうう。
あっという間に神夜の乳輪は唾液まみれとな
り、シャオムウはそれを吸い上げて自分の唾液
と神夜の乳肉の味を口内で堪能する。

「んぐちゅっ、ぐちゅちゅっ……んぶえっ、ぶ
うう……んっ……こくんっ、ごくんっ！ぶふ
え……良い味じゃのう、ぬしの乳輪は♡
「あううううう……そんなっ、そんなあ
……恥ずかしいっ……わ、わたしのお乳い……
……それ、こっちも……♡
「さて、こっちも……♡
「ひっあ！はくうううううんっ♡」

もう片方の乳輪にも同じことを繰り返し、ひ
たすら神夜の心を刺激する。
奮状態へと導かれていた。

「おやおや、恥ずかしい乳輪じゃのう？こん
なにぶっくりと腫れあがって……なんじゃ、こ
れは？んん……れるるるおんっ……れる
るるおっ♡
「んきひいっ……ひっ♡うああああんっ……
……あああああ……シャ、シャオムウっ、さあ
んっ……くふっ……ひっ、ひああうっ！」

膨らみきつた感触を楽しむように、舌は先端
をめり込ませながら円運動を描く。
乳輪の周囲から乳首スレスレまで1回転する
毎に範囲は狭まって、隙間なくシャオムウによ
ってマキキングされてしまう。

「おおおおおお……♡おひっ♡ひ
っ……くひあああ……お乳がっ、私のお
乳がっ……んあああ……恥ずかしくなってます
ううううう♡
「そうじゃのう、こんなに乳輪を広く大きくぶ
っくり膨らませおっ♡この乳輪だけで貧乳
な娘の胸全部くらいはあるぞな♡恥ずかしい
のうっ♪れるちゅぱっ……ちゅぶぱっ、ちゅ
ぱあ……んふえっ♡」

「貧乳な娘の胸って……♡
……！こら、なぜわしの胸を見る！わ、
わしは小さくないわ！これが規格外に大き
ぎるのじゃ！ちゅばっ……れるるおっ♡
「くあああ……はふっ、はふううう……
……それ以上刺激っ、しては……あ、あふっ
はふうううんっ……き、きちやうっ……♡
きちやうううっ……♡」

存在を主張する淫猥な乳輪の中心にあつて、
更に大きな存在を示している乳首。
乳輪のふくらみと同様に勃起しているそ
れは、ツンと尖って震えていた。
……だが、シャオムウは、あえてその存在を
無視して乳輪のふくらみに没頭する。

「んちゅぶっ、ちゅぶっ……ちゅぶっば、ふぶ
っ……んふふ、なんじゃ？ただでさえ美味
い乳肉が、もっといやらしい匂いと味になつて
おるぞ♡んん？」

悪戯っぽく笑いながら、乳輪を舐め続けるシ
ヤオムウ。
「あああああ……だ、だっ……だっ……
お乳がっ……おっぱい……はくっ……んう
うう♡き、きてますううう……んきっ♡
き、きてるんですううう……♡
「ほう、何がきておるのじゃ？んれるっ……
るるるるおんっ……」

左右の乳輪を交互に舌でしゃぶり、空いてい
るほうには指を這わせて刺激している。
「みっ、みるくがっ……みるくがあっ……♡
あしっ……んひやううう……そんなに刺激
するとおっ……お、お乳がっ……み、みるっ……

みるくううっ♡♡♡

もちろん、シャオムウはその存在を知っていた。勃起した乳首は妖しい匂いを放つ母乳を滲ませていたということ。

「そうじゃのう……♡ 乳首から滲んで、溢れてきた母乳ミルクがとろおくりと♡ 乳輪に流れてっ……♡ じゅるるるるるるっ♡ んんっ♡ んちゅばあ……♡ なんともたまらんのうっ♡ プリプリとした乳輪の肉の上に、あまあいミルクの味が♡♡♡」

じわりじわりと滲む母乳は、刺激を強めれば強めるほどその量を増していく。最初こそ滲んだそばからシャオムウの舌が絡め取っていたというのに、すぐに舌でフォロしきれず母乳の山を伝って下へ流れるほどになっ

「う、うあああ……♡ お乳、おっぱい……♡ 私のおっ、みるくううう……♡ やだ、やだ……♡ 出てきちゃう、シャオムウさんの舌にっ……♡ いけないミルクが誘われてっ……♡ ひっ♡ んひゃふううううううっ……♡」

ポタッ……ぽたあっ……だらああ……。とろみのある乳白色の体液が、1滴、また1滴と乳房から流れ落ちていく。

「ふふふ、すぐに母乳が溢れてくるなんて、節操のない身体じゃのう。いつも母乳を滲ませて服をぬらしていたこと、ちやーんとわかっておったぞ」
「え！？」 えあ……ああ……そんな、それはっ……ちっ、違いますっ、誤解ですっ……♡」

そう言いつつもしこりきった乳首は動揺するようにビクンと震え、また母乳を1滴垂らしてしまう。

「わしは鼻がきくからのう……ぬしの汗の匂いにまじって、しつかりとこの乳の奥からミルクの匂いがしておったぞ？ もちろん……♡ チンポの匂いも、のう♡」

「はうううう……♡ い、言わないで、ください……♡ だっ、だっ……♡ わ、私、身体をいじってないですぐコーンしてきてっ……♡ 関係ないときにオチンポが勃起したりっ、乳首が勃起したりしてっ……♡ 両方ともお、先っぽが湿ってくるんですうう……♡ 必死に隠しても、意識すれば意識するほどおっ……♡ 先っぽがトロ口になっ……♡ 服に染みこんでっ……♡」
「まったく、困った娘じゃ。ぬしがいつもいっつもそんな匂いを漂わせてるから、わしまで勃起してしまっ……♡ 毎日抑えるのが大変だったんじやぞう♡ れるるおんっ……♡ ちゅぶぱっ、ちゅぶ……♡ んんう♡」

じわじわ……♡ とろっ……♡ とろろおっ……♡ とろおんっ……♡ 乳白色の体液を垂らしながら、小刻みに震え続ける美巨乳。

真っ赤に火照った神夜の肉体が次の刺激を求めて無視し続けている。それを無視し続けている。シャオムウは神夜のほうから胸を揺らして乳首を舌に当てようとしても、舌を引っ込めてそれを避けてしまっ……♡

「んあううう……♡ シヤ、シャオムウ……♡ さああん♡ じ、焦らさないでええっ……♡ も、もう、私のっ、神夜のおっぱいはあっ……♡ シヤオムウさんの舌で、こんなに恥ずかしくなっ……♡」

「そうじゃのう……♡ 恥ずかしいのう♡」

シャオムウは神夜から一旦離れて、まじまじと目の前の肉体を見つめる。

「服を着ても、歩いてるだけで……♡ いや、呼吸するだけでたぶんたぶん揺れているエロ乳が、乳輪を下品に膨らませて、乳首をチンポみたいに勃起させてっ……♡ なんとも恥ずかしい姿じゃの♡ チンポのほうも、先っぽから根本までガマン汁でドロドロにしおっ……♡ しかも乳肉も乳輪も乳首もチンポも並外れたサイズに膨らんで♡ 恥ずかしいことこの上なかるう♡」

目を細めて、まるで軽蔑するかのよう薄ら笑いを浮かべながら告げるシャオムウ。

「ああああ……♡ 言わないでっ、言わないでください……♡ そ、そうですうう、神夜は、いやらしい身体なんですう……♡ すぐ身体が火照って、毎日自分の身体をいじって♡ いやらしい匂いをさせてる、悪うい姫なんですう……♡ じゃなくっ……♡ お願いしますうう……♡ 乳輪だけおっぱいの一番弱いところをっ……♡ いじってくださあ……♡」

「どうするかのう。うーん、もうこの乳にも飽きたかのう」

あえてシャオムウは神夜を突き放す。彼女として目の前の肉体を責め尽くしたいのは山々だが、神夜の潤みきってすがりつくような目がもつといじめてやりたいという欲望をわき上がらせる。

「そっ、そんなあっ！ 飽きただなんてっ……♡」



シャオムウは神夜の乳首に人差し指を押し当てる。

「んくっ……♡ あ、あああ……♡ 乳首いっ……♡ 触つてますううっ♡ 指の先っぽと、お乳の先っぽが触れ合つて♡ んっうっ♡ はああうっ♡」

「自己主張の激しい乳首じゃの♡ ぬしは出る杭は打たれるということわざをしておるか？」

「ほええ？ い、いきなり♡ なっ……♡ なんですかあっ……？」

「むふふうくん♡ こういうことじゃっ♡」

「ほっあ♡ あおおうっ……♡ おあっ……♡ ンキゅっ♡ お、押しちゃっ♡ 押しだめえええっ……♡ お乳の先っぽ、押すのぬじゅちゅちゅっ♡ にちやっ……♡ にちやぬ

「敏感な乳頭は、指を押し返そうとしているのか先端から母乳を溢れさる。だがそんなもので、指を押しつけられるはずもなく彼女の乳首は、指を押し返すと自身の乳肉の中へと押し込まれていった。」

「おおおおおっ♡ おほっ……♡ ほおおおおおおおっ♡ あ、あぐううっ……♡ さ、先っぽが♡ いやらしいお乳のおっ、エツチな先っぽがあっ♡ んひっ……♡ お乳の中にい……入っちやううううっ♡」

「ずぶずぶ……ずぶずぶうう、ずぶうううっ♡」

「くふふ、乳首は固く充血しておるが、さすがにこのデカ乳は固くできぬだろうから♡ ほれほれ、ミルクタンクの中に乳首が入っ♡ くぞう♡」

「ひやううううっ♡ あぐううんっ……♡ はっぐっ……♡ おおうっ♡ こ、こんなことっ♡ 自分でもしたことないの……♡」

「ほう、じゃあいつもはどんな乳オナニーをしておったのじゃ？ 言うてみい♡」

「え、そ、それはあっ……あ、あのっ、そのっ……し、してません、何もっ♡♡♡」

「そう言いつつも彼女のペニスに激しく上下に揺れ動いて愛液を滴らせてしまう。」

「チンポをこんなに揺らしながら言っても何の説得力もなからう。いいから言うのじゃ♡ ほれ、ほれっ♡」

「ぎゅっむっ、ぎゅぶぎゅぶっ……ぐりゅうううんっ！」

「ひっきつ♡ んひやあうっ♡ い、言いますっ♡ 言いますうううっ♡ い、いつもはあっ、お乳のっ♡ 根本からあ……ぎゅうううっ♡ し、搾ったりっ♡ 指で乳首をしごいたりっ♡ してますうううっ♡」

「うむうむ、それでよいそれでよい。若い女子は素直なのがよい。そして……快楽にも素直なのがう♡」

「んあひいひいひいんっ♡ ひぐっ……お、おおおおおおっ♡」

「はひいひいんっ♡」

「乳首を完全に内部へ押し込んだところで、挿し込まれた指が引き抜かれる。」

「ほうれ、見てみい♡ ちゅぱっ……ちゅ、ちゅちゅちゅううっ♡ ちゅぱっ……これが陥没乳首というやつじゃぞうっ♡ んちゅっ♡ れるるるおんっ♡」

「両手の人差し指を交互に舐めしやぶりながらシャオムウは告げる。その言葉に誘導されるように、神夜は差し出したままの乳肉を見つめた。」

「あああああっ……♡ い、いやあっ……♡ こんなのおっ、恥ずかしいですうううっ♡ 勃起した乳首も恥ずかしいの♡ こっちのおっ♡ 乳首がめり込んでるほうもすごく恥ずかしいっ……♡」

「陥没しているというのに、穴から乳汁を垂らし続けおっ♡ エロいのうっ……♡」

「じゅぶぶっ……じゅぶっ、じゅぽおっ……じゅぶぶっ♡♡♡ 指が再び陥没した穴へと入り込み、今度は根本まで入れたところで円を描くようにそれを動かす。」

「ぎゅりゅりゅっ♡ りゅりゅりゅうううっ♡ じゅぶぶぶぶっ♡ りゅうぶっ♡」

「んひいひいひいひいんっ♡ おあああああっ……♡ おほおおおっ♡ に、逃げ場

「んぐんぐつ……んぶつ、ごくんつ……うはあ
つ、ほうれ、陥没したエロ乳首を引きずりだし
ちやるぞう♡ ずつ、ずじゅうううつ……じゅ
ちゅううう♡♡♡」
「ひ、ひいいいん♡♡♡ 隠れた乳首が♡
また♡♡ 外に引きずり出されますううう
うう♡♡ あっ、ああううう♡♡ ずる
ずる♡♡ 窪みから♡♡ お乳の先っぽ♡
はみ出るううう♡♡♡♡♡

「ずりゅつ……ずるるつ、ずりゅぶつ♡
吸引力によってゆっくりと引き上げられてい
く肥大した突起。
先端が陥没から顔を出したことを舌先で確認
したシャオムウは、歯で甘噛みしながらそれを
一気に引っ張った。
ずっ……ずるうううううん♡♡♡

「んおおおお♡♡♡ おっ……♡♡♡ おほおお
おお♡♡♡ 引きずり出される♡♡♡ 引きず
り出されてるううう♡♡♡ 引きずり……
だっ♡♡♡ 出されたのおお♡♡♡ 皮膚を
ううう♡♡♡ おちんぼのおっ……♡♡♡
された時みたい♡♡♡ 陥没乳輪の中で自分の出した
「むふふ♡♡♡ 陥没乳輪の中で自分の出した
ミルク漬けになっ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
のう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
ふちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
むちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
むちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡

再び顔を出した乳首を唇に含み、舌で転がす
ようにしながら吸い立てるシャオムウ。
口の端からは乳液が漏れて、それがアゴに伝
ってポタポタと岩の上を濡らす。
「はへっ♡♡♡ あ、あへえっ……♡♡♡ はぐっ、
ふぐうう♡♡♡ ううう♡♡♡ うん♡♡♡ ぎ、ぎもひ、

……いれふううう♡♡♡ 乳首の先っぽおっ
っ♡♡♡ しごかれてええ♡♡♡ 唇で
あぐうう♡♡♡ ちんぽおっ♡♡♡ ちんぽおっ♡♡♡
っ♡♡♡ ま、まるで♡♡♡ ちんぽおっ♡♡♡ ちんぽおっ♡♡♡
「ちゅちゅ♡♡♡ ちんぽおっ♡♡♡ ちんぽおっ♡♡♡
どメスミルクが次々と溢れてくるわ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
ゆじゅううう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
の味も、うまうま♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
の味も、うまうま♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
る味じゃのう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
っ♡♡♡ はあ♡♡♡ 肉自体がミルク味にな
むう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
ジュ♡♡♡ シーナエロミルクの味♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡

ぐにぐに……ぶじゅうう♡♡♡
唇を軽く前後に動かしてしごきながら、前歯
で何度も押しつぶすように刺激して濃密な淫汁
を引き出してやると、胸以外からも汁は溢れ続
ける。
それが一番よく現れているのは……シャオム
ウの手コキを味わいながらも放っておかれた勃
起ペニスだ。
ビクッ……びくうう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
醜く勃起したそれは、母乳と愛液の混ざった
淫汁によって濡れ光り、快楽が欲しいと言わん
ばかりに首を振っている。

「おうおう♡♡♡ ちんぽももう、限界みたいだの
う。真っ赤になってゴツイ亀頭がはちきれそう
になっておる♡♡♡」
乳首を吸い立てながらも、シャオムウは視線
をずらして神夜のペニスを見つめる。
その視線に反応するように、鈴口はドブドブ
と半透明の蜜をまた溢れさせた。

「はぐううう♡♡♡ ちんぽおっ♡♡♡ ちんぽおっ♡♡♡
のっ、わたしのちんぽおっ……おあずけされす
ぎてっ、もう……イキたくして仕方ないです
っ……♡♡♡ ちんぽからシャセイしたくてっ……
ちんぽが♡♡♡ ちんぽがもう極まりないんです
ううううう♡♡♡♡♡

どぶっ……どぶんっ……どぶどぶっ……♡♡♡
溢れる量は、神夜本人ですら驚くほどの量。
今まで興奮しても、服にシミをつくる程度し
か漏らすことはなかったというのに。
今の量は……シミどころか、下半身全てを濡
らしかねない量だろう。

「そうじゃのう……じゃあ、このちんぽにイイ
モノをあげるとしよう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
うう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
「んあ♡♡♡ ああ♡♡♡ みるくううう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
全部なくなってしまうううう♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
「シャオムウは頬が膨らむほどの量を一気に乳
首から吸い上げて、それを隅々まで味わうよう
に口内で舌を縦横無尽に動かす。

「くちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
んくちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
もっ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
と、飲んではいかなあ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
どっ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡ ちゅちゅ♡♡♡
口を開いて、舌で丹念にかきませた母乳を垂
らすシャオムウ。
その矛先は当然、いきり立つ神夜の巨根。





スプロボ
Σ たいは
です


🐱 なかがき 2🐱

小説、すごかったです…!!
小牟にあこがれるなあ
あんなふうに自由に生きるのも悪くない…
とかいってたら
周りの人に「そんなちがわない」
っていわれました…マジか


小説続くのですが今度は
次の分のプロットを見てないので
自分も一緒に期待するです!ドキドキ
もちろん自分も最後まで挿絵するですよ!
どんなシーンでも…ドキドキ!!!!

そういえばスプロボ
オリキャラ公開したですわ★
セッコたん???
きたんじゃねセッコたん?
まわりの子も「スプロボで
初同人誌作るかも」って言ってた…
きたんだよ!!セッコ時代!
(↑石器時代みたい)
これは… やれんのか!?
やれんのかっ!!!?
いやいやあわてるなわたし
むげろもう一冊あるじゃない
落ち着けー…!!
ひっひっふー…ひっひっふー…
セッコ!!セッコ!!!うおおー!!!!


…ラスト、らくがきから
錫華たんおへそマンガまでとぞー🐱



はい
らくがきコーナーです…って
おもったよりすくない？



シャオムウようしゃせん！あふー
狐っ娘いいですねー嫁入の型
かきたかったけどむー…
ウェディングドレス愛が足りないー
あーそうせ今度親戚結婚するって
いってたっけ、じっくり見てこよっど



パニーになったら
まさまさエクセ姉様っぽい★


アシェンちゃんです...が
描くのむつかしすぎるです~ひー!!
このゲンブスパイクじゃなくっても
痛くないんじゃね!?
髪型+ロボパーツの二重苦で
わたしが熱暴走しちゃう~!!

むー、ロボ苦手克服するときは
くるのかなー...。
...スパロボまでには...って
あつという間っぽいよ!?



脇キャラだとアンさん好きかも!?
性格がさっぱりしてて。自分だったら
あの体に産まれた時点で
いろいろ悩んじゃうよ、呼吸とか。
むーめんどくさくなったら即爆発!!!

←あ、しっぽ



男子コーナー、
今回はちよびっとだけ。

ハーケン様、好きだけど
ネタバレ過ぎて
何もコメントできないぞ!!

零見が素敵ぞ★
武器に名前付けてるのがカワイイ♥
くちぐせの「重畳」は…むー
流行らせにくいな…。
カワパンガ的なキラワード希望!

重畳

そして…ってまた
セッコちゃんじゃね!?
これむし70本!!
自重ー!!

なんげが恋な気分だ

ニッコは一本
何々訓練なぐゼミッ?
私は兵士だけど…



タイル
あざか たん
銀時姫の

タイルロータ

ってこれほどロリじゃないぞあ

カニカクナ
は、その目シメシ
すずかサシメ
あまは...



ね

ね



ご...せは
ダ...ア...

...

...

おれ...
何れ...
...

あ...
...

...

お...
お...
お...

くっくく...
やびっ♡
お...
お...
お...

お...
お...
お...
お...
お...



お...
お...
お...

お...
お...
お...
お...
お...

お...
お...
お...
お...
お...

あ、無礼な!!

あ、...着れてない...
あ、...など、お尻も...!!

IN-舞 #PMo:キー

舞 #PMo:キー

ち、...お尻も...
す、...キミなら、ち、...
オロキママ...!!

...お尻も...!!

お尻も...!!

お尻も...!!

お尻も...!!

お尻も...!!

お尻も...!!

お尻も...!!

お尻も...!!

お尻も...!!



☺ あとがき ☺

今回はそんな感じで一草
また楽しく描きたいと鬼いますので
よろしくどうぞなのです！

そんなんで次回 フロウマ *03 完結！！

かぐやたんは薬ゲットできるのか！？
琥魔のビデオはいくらで売られるのか！？
みさくらはアシェン描けるようになってるの？
(がんばれよ)

謎が謎を呼びつつ急展開の次号
乞うご期待なのですよ！

では～★

フロウマ *02

発行：ハースニール
発行日：2008年8月17日
印刷所：ニモ印刷さま

<http://www.harthnir.com/>

18歳未満の方の購入を禁じます。
コピー、アップロード行為等ご遠慮ください



www.harthnir.com